これからチームmore²の発表を始めます。

よろしくお願いします。

＜クリック：目次＞

今回の発表は、次の通りの順番で行います。

＜クリック：メンバー紹介＞

最初に、チームメンバーの紹介です。

このチームのリーダー兼システム制作担当の下井。

同じくシステム制作担当の仁井本。

デザイン担当の岡田、亀山、澤山、新岡。

以上の6名です。

＜クリック：研究テーマ＞

次に、研究テーマです。

私たちのチームの研究テーマは、「就活させるための就活支援システム」です。

この「就活させる」とは、就職活動、特に企業説明会などの企業決めを始めるのが遅い学生の手助けをし、背中を押すことを指しています。

＜クリック：テーマ選定理由＞

続いて、テーマの選定理由です。

テーマの選定理由は二つあります。

一つ目は、使いやすい就活支援アプリを作ることです。

私たちが就職活動をするうえで、企業説明会などの日程の通知はMicrosoft TeamsやGoogle Classroomで行われていました。これらのアプリは講師の方々とのコミュニケーションをとったり、授業の提出物を出したりととても便利なものでしたが、就職活動においてはもっとこんな機能があったら便利なのにと考えることがありました。例えば、企業説明会などの情報は、Microsoft TeamsやGoogle Classroomに就活担当講師の先生が登録しているので閲覧することが可能です。しかし、基本的に情報は新着順で表示されるので自分が見たい情報を探さなければいけません。このことから、説明会の日程などで並び替えをして表示できると便利になるのに、といったものです。そのような便利な機能が入ったシステムが欲しい、作成したいと考えたことが一つ目のテーマ選定理由です。

二つ目は、就職活動を始めたくなるようなアプリを作ることです。先ほどの就職活動で使いやすい機能だけでなく、ほかに機能がないか考えたところ、先生から企業説明会をなかなか受けない学生がいる、このような学生を動かせるようなシステムがあればいいという意見がありました。その意見から、なかなか動かない学生の背中を押す機能があれば、学生、先生ともに利益があるシステムになると考えたことが二つ目のテーマ選定理由です。

＜クリック：利用形態＞

次は、利用形態です。

使用規模はここ広島情報専門学校を想定しています。そして、使用者は広島情報専門学校の就活を行う学生と講師の計２００人程度と考えています。

開発したシステムはWeb上で稼働することを想定しています。

＜クリック：開発環境①＞

次は、開発環境です。

使用言語は、、HTML、CSSです。

＜クリック：開発環境②＞

開発環境は と です。

使用データベースはです。

＜クリック：開発環境③＞

使用フレームワークはとです。

使用ライブラリはです。

開発環境は以上です。

＜クリック：システム概要＞

次は、システム概要です。

今回制作したシステムは、企業説明会の予約ができる就活支援システムです。

そして、より就職活動が行いやすくなる便利な機能や、学生が自分の進捗状況を周りと比べることができる機能を実装することで、学生自ら就職活動を進めようと考えるようになるシステムになっています。

＜クリック：機能説明①＞

次は、機能説明です。

機能説明は、学生、就活担当講師、講師の3つの役職それぞれにある機能と共通にある機能に分けて説明します。

最初は、共通の機能です。

共通の機能の一つ目は、学生、就活担当講師、講師それぞれを判断するためのログイン機能です。ログインしていない場合はこの画面が必ず最初に出てきます。

次に、企業説明会の日程が表示されるカレンダー機能です。

この機能は、就活担当講師が登録した企業説明会がカレンダー形式で表示されます。他にも、表示する内容を変更することができ、学生の場合は自分が予約している企業説明会のみに絞って表示したり、就活担当講師や講師の場合は予約している人数を表示できたりできます。そしてこの機能が、テーマの選定理由である使いやすいシステムにするための機能です。この機能により、Microsoft TeamsやGoogle Classroomではできなかった企業説明会の日程が一目でわかるようになります。

次に、学生が就活の進捗状況を回答したアンケートを集計したグラフ機能です。

この機能は、後ほど説明する学生のアンケート機能により、学生全員の就活の進み具合を調査し、それをグラフ化して表示するというものです。そしてこの機能により、テーマの選定理由である学生に就職活動を始めさせることが可能になるのではないかと考えています。その理由として、このグラフに表示される数値を見ることで、周りと比べて現在の自分がどれだけ進捗が遅れているのかが一目にしてわかるので、就職活動を始めなければ、より早くしなければという気持ちになると考えられるからです。

そして新着情報表示機能があります。この新着情報表示機能は学生と講師、就活担当講師の二つに分かれており、学生の場合は新しく登録された企業説明会が表示され、講師、就活担当講師の場合は学生が新しく予約した企業説明会が表示されます。

＜クリック：機能説明②＞

次に、学生の機能です。

学生の機能の一つ目は、説明会を予約したり、その予約をキャンセルしたりできる説明会予約機能です。

次に、学生が自分の取得資格を記入したり、希望する業種を記入したりするプロフィール機能です。この機能により、次に説明する企業おすすめ機能を使うことができるようになります。取得資格や業種は学生本人によりいつでも変更が可能となっています。

次は、先ほどのプロフィール機能の情報によりその学生にあった企業を表示する、企業おすすめ機能です。おすすめする項目としては、学生がプロフィール機能で記入した希望業種にあった企業、同じくプロフィール機能で記入した取得資格から、その学生と似た資格を取得している先輩が就職した企業、前年度多くの広島情報専門学校の生徒が就職した企業の3つの項目からおすすめ企業が表示されます。そして、この機能により、テーマの選定理由である学生に就職活動を始めさせることが可能になるのではないかと考えています。その理由は、急に自分で企業を決めてくださいと言われても自分がやりたいことなどが特にない学生などはなかなか企業を選ぶことができないと思います。そのような学生に、この企業なら自分に合っているのではないか、内定が取れるのではないか、と考えさせ、背中を押すことが可能になると考えているからです。

次に学生が自分の就職活動の進捗常用を記入するアンケート機能です。このアンケートは、週に一回、学生に回答してもらいます。週に一度というかなりの頻度で記入してもらうので、前回のアンケートの回答から変化がなければ変化なしと回答することで前回の回答がまんま記入できるようになっています。

次に履歴書自動生成機能です。この機能はＡＩにより、自分の得意科目を記入することで、それに合わせた自己PR文を作成してくれる機能です。

そして最後に新しく説明会が追加された時などに、お知らせがメールで来る通知機能があります。

＜クリック：機能説明③＞

次に、就活担当講師の機能です。

就活担当講師の最初の機能は、企業管理機能です。この機能には、企業を登録する機能、企業の内容を変更する機能があります。

次に、説明会管理機能です。この機能には、説明会を登録する機能、登録した説明会を削除する機能、登録した説明会の日程などを変更する機能、登録した説明会を一覧表示する機能があります。この、説明会を登録する際、自動的に学生に新しい説明会情報としてメールが送信されるようになっています。

最後に、学生管理機能があります。この機能には、学生を登録したり、学生を削除したり、学生が記入したプロフィールを参照することができます。

＜クリック：機能説明④＞

最後に講師の機能です。

講師の機能は就活担当講師の機能から登録機能と削除機能を除いたものとなっています。そして、自分が担任のクラスの生徒のみを表示するようになっています。

講師の機能は、説明会表示機能、企業表示機能、学生表示機能があります。

　説明機能は以上です。

＜クリック：実演＞

次に実演に入ります。

実演用の原稿へ

＜クリック：スケジュール＞

作業スケジュールはこちらです。

青の線が予定で、オレンジの線が実績です。

全体的に遅れが発生し、特にデータ管理機能において大幅な遅れが生じました。

＜クリック：まとめ＞

最後はまとめです。

今回のシステムの政策での改善点は二つあります。

　一つ目は、スケジュールの管理が甘かった点です。

　先ほどのスケジュールを見ていただいたとおり、全体的に遅れが生じていました。この原因は、システム制作担当のプログラミング知識や、技術が足りていないことが挙げられます。そして、システム制作が遅れているので、その次に控えている画面制作などの作業も遅れていく、といった遅れの連鎖が起きてしまい、大きく遅れが生じてしまいました。

　これを改善する方法としては、プログラミングの知識や技術を身に付けることに加え、作業の難易度や作業の量をあらかじめ想定しておくことが必要だと考えました。これにより、作業の難易度や量を想定し、早めに終えることができるものを先に行うことで、なるべく手が空くメンバーが出ないようにすることができたのではないかと考えることができます。

　二つ目は、チーム内のコミュニケーションが円滑にとれていなかった点です。

　これは一つ目の改善点であるスケジュールの遅れにもつながってしまった点です。コミュニケーションを円滑に取ることができなかったことにより、手が空いているメンバーがいることや、作業の進捗状況を把握できず、作業の割り振りがうまくいかなくなりました。

　これを改善する方法としては、一定期間ごとに進捗状況や、メンバーが抱えている問題点を確認しあう場を設けることが必要だと考えました。これにより、メンバーがそれぞれ個々で作業を進めるのではなく、チーム内で協力して進めることができ、スケジュールの遅れも少なくなったのではないかと考えることができます。

＜クリック＞

以上でチームmore²の発表を終わります。

ご清聴ありがとうございました。

＜クリック＞

質疑応答です。